

はじめに

当館の使命は、郷土埼玉に関する歴史的・文化的に価値ある行政文書、古文書、地図などの記憶資料を収集整理し、県民の共有財産として大切に保存するとともに、活用しながら後世に確実に伝えていくことにあります。そのため、当館ではそれら記録資料の収集、整理、保存、活用に関する様々な事業を行っておりますが、これらの活動を通じて得られた新たな知見のほか、職員の日頃の調査研究の成果を紀要にまとめ、これまでに公刊してまいりました。

第三十八号となる本号にも、様々な視点から行った調査研究の成果を収録することができました。その内容は、岩田系図諸本の比較分析、正保武蔵国絵図の基礎的考察、国学者井上喜文の『紫式部日記傍注』書入れと「紫式部日記抜書」についての一考察、埼玉県立文書館収蔵史料からみる埼玉の温泉利用の諸相、埼玉県立文書館収蔵「絵ばなし」研究会関連資料と埼玉県立久喜図書館所蔵『ヨイコノカクゴ』から、埼玉県の歴史公文書における制度的課題に関するものです。いずれも文書館職員の職員として求められる専門性に基づいた研究成果といえます。本誌が今後の文書館事業の基礎資料となり、さらに広く県民の皆様にご利用され、県民文化の向上の一助となれば幸いです。

また、今後とも益々調査研究活動を充実させ、その成果を広く事業に活かしていきたいと考えておりますので、一層の御支援・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和七年三月

埼玉県立文書館長 福沢 景